



テレビで活躍する芦田愛菜さんは、小学生の時には毎年200冊の読書をしていたそうです。だからというわけでもないでしょうけれども、彼女が有名私立中学に受験合格できたことは、読書がその大きな礎になったことは間違いありません。幼少期の読書の習慣は、想像力、発想力、思考力はもちろん、集中力、情緒の安定、そして何より語彙力の強化により言葉による表現の豊かさを生み出します。今月は、プライムキッズで提供している良書多読ツール「ことばの学校」をご紹介します。内容は言葉の学校からの提供文になります。是非ご覧になってください。

プライムキッズステーション代表 齋藤 和宏

～ことばの学校～

プライムキッズステーションでは、「ことばの学校」による速聴・速読学習法を推進しています

速聴・速読法って何？

速聴・速読法とは、一般的な目で追うだけの速読法の訓練とは全く違い、子供でも楽しく飽きずに訓練ができる方法として、米国で開発されました。朗読されたテキストを、耳から聞こえてくる音声に従って文字を目で追うという聴覚をも刺激した方法です。デジタル処理された音声は、次第に速くなっていくので、訓練していくことにより、情報が右脳に直接入力されるようになります。通常の朗読音声では、5倍以上になると普通の人ほとんど何を言っているのか聞き取れなくなります。しかし、訓練を積み、脳が慣れてくると5倍・8倍の音声を楽に聞き取れるようになります。通常の単行本ですと、30分くらいで読み終えてしまう速さです。そしてこのような状況下では、脳は追唱(声を出さずに頭の中で文字を音声にすること)をする時間を許さず、情報は直接右脳に入り記憶されるようになります。その結果、脳の神経細胞は活性化され、シナプス(脳内回路)も増えて、速脳ができあがってくるというわけです。

実際の訓練は？

最初は0.5倍から1.0倍で、主に興味のある物語などを読んでもらいます。独力で読むのと違い、声優の音声ナビゲートしてくれますので、本の嫌いな子、読むのが遅い低学年の子でも、自然と文章に親しみを持ち、物語の展開にのめりこみます。ここでは本の素晴らしさを体験してもらおうという趣旨もあります。朗読速度を次第に上げていきます。最初は2.7倍くらいで見失ってしまいます。次第に訓練をするにしたがって、2～3年で5倍くらいの速さで読めるようになります。さらに訓練を積むと8倍くらいでは普通に理解して読めるようになります。あたかもピッチャーが投げってくる速球が、止まって見えるかのようになるのと同じ状況が、読書というものでもおきてくるのです。この時点で、既に速脳はできあがってきていますので、読み始めから徐々にスピードを上げていくことはせずに、初めから高速で読むことができます。そして、初めて接する本でも、確実に高速でないよう理解できるようになります。朗読は全てプロの声優に吹き込みを依頼しています。タイトルは200冊以上になっておりますので、速く読めるようになった生徒は、どんどん次から次へと読破していっています。

相乗効果

速読5倍以上になりますと、情報は左脳を介さずに右脳に直接インプットされるようになります。この状態になると、字を絵として右脳が捉えるので、本の内容や書かれている漢字などを驚くほど記憶していきます。訓練中の生徒も文中に出てくる漢字をスラスラと読めるようになってしまおうというのは、ことばの学校では日常なことです。

集中力

そして、速聴・速読は知らず知らずのうちに、文字を高速で追う(1字1字からそのうち10～20字を一時に見るようになる)ことから、大変な集中力を必要とし、右脳が活性化し、 α ～ θ 波の脳波が発生します。生徒は速読を終了した後も、当分の間は α ～ θ 波の脳波が検出できる集中状態となるのです。

勉強への活用

脳波が α 波状態になっている時は、非常に集中していますので、速聴・速読の後には、必ず新規に学ぶ単元の学習、または集中力を要するドリルなどを行います。速聴・速読の前と後では、計算ドリルの所要時間と正解率が大きく差が出ます。また、集中力のない子供でも、最低20分くらいは集中力が持続したという事例もあります。

実感がわかない方に

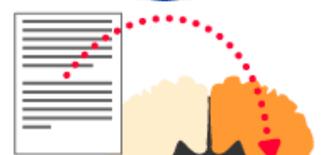
速聴・速読は、自動車的高速道路から一般道へのインターチェンジに例えることができます。高速道路を走っている時は、脳が高速走行に対応して集中して運転しています。しかし、インターチェンジを通過し、一般道へと入ってくると、脳が即座には対応できず、周りの車や景色の移り変わりが妙に遅く感じられ詳細に見えてきます。これはちょうど速聴・速読を実施した後に、普通で学習した時の「遅い！」という感覚と似ていると言えます。また、この学習により、右脳に無意識のうちに刻み込まれる情報は、ある場所に歩いて行く時の道順に例えられます。特に記憶しようとしていないのに、ある場所に歩いて行った時の道順を、目をつぶって思い出すことは誰でもできるでしょう。誰にも強制されず、自分でも意識していないのに覚えている、これを学習に活用するという事です。

音声のナビゲートが無くても速く読めるようになるのか？

速聴・速読の訓練を積んでいると、必然的に数個の字を纏めて見、読む癖がついてきます。また、一定速度を越えることで黙読を不可能とした読み方をしていきます。これを体得した生徒は、普通に読む時も黙読をせずに、直接文字を認識する読み方をするようになります。仮に「自動車」という文字が出てきたとしましょう。普通は、頭の中で「じどうしゃ」と黙読してから自動車という物体を認識します。しかし、町で自動車を見かけても「じどうしゃ」と黙読してから自動車という物体を認識する人はいないでしょう。速聴・速読では「自動車」という文字を見た瞬間に、自動車という物体が右脳にイメージとして形成されるようになります。また、仮に訓練を途中でやめたとしても、一旦覚えた速読の楽しさ(普通に読むより楽しめ)は、自転車の乗り方のように一生忘れることはありません。



デジタル処理された音声次第に速くなっていく。



このようなプロセスで訓練していくことにより、情報が直接右脳にインプットされるようになります！

受講者のメッセージ

有名私立中 1 年生

小学生の時にいわゆる進学塾で、頭の中に知識を無理矢理に詰め込む勉強に追われて過ごした結果、私は「頭の良さは記憶量の多さだ」と信じ込み、思い通りにいかない劣等感にさいなまれていました。「速聴・速読」を実践して初めてその大きな誤りに気付きました。「本当の頭の良さは、開発された総合の脳力なのだ」と。現実には私は「速聴・速読」を続けるうちに、物の見方が積極的になった上、自分の意見も積極的に話せるようになりました。また、何でもチャレンジしてみようという前向きなやる気も身に付きました。それまでは、英単語を覚えてもすぐ忘れていたのに、たった3ヶ月の実践で英検3級に合格し、定期テストでも100点が取れ、また、スピーチコンテストでも優勝できました。「速聴・速読」はまさに私の人生を変えてくれた神様からの贈り物だと思っています。



1人1台のiPadを使用します。ナレーション付きだから、今年入ったばかりの1年生も楽しく本を読み続けます。読書は集中力と語彙力の強化にうってつけ。幼少期からの読書週間は、子供たちにとって一生の財産になるでしょう。



読書が終わったら感想文を書きます。1年生はまだ感想文は書けないので、登場人物を書いてもらっています。

★速読の日には、裏面授業として「育脳」を行っています（各約45分）。来月号では「育脳」についてご紹介します。

★バックナンバーでは2022年1月号で「ガウディア」、3月号で「レプトン」を紹介しています。ホームページよりご覧下さい。

プライムギャラリー♪



母の日



こいのぼり



お誕生日会



英語劇発表会

～プライムキッズからのお願い～

- 着替えの洋服の衣替えをお願いします。梅雨～夏のシーズンは特に着替えが頻繁に発生しますのでよろしくお願いします。
- 持ち物類には必ず記名をお願いします。お忘れ物の所有者が分からずお返しに時間がかかってしまう場合があります。
- 予定表のご提出は必ず期限までをお願いします。
- 定期的にガイドブックとQ&Aのご確認をお願い致します。
 - ・・・急な変更には融通を利かせるよう配慮しておりますが、極力ガイドブックに基づいた運用をご協力をお願いします。

プライムキッズステーション
ホームページ
<http://www.primekids.jp>



○プライムキッズ日常の様子をホームページからご覧いただけます。
○ホームページから、ガイドブックや各申請書がダウンロードできます。パスワードは「primeprime」です。